

## 論文の内容の要旨

論文題目      カリヨンのひびき——ロングフェローの詩とアメリカの文化——  
氏 名          澤 入 要 仁

19 世紀アメリカの詩人、ヘンリー・ワズワース・ロングフェロー(Henry Wadsworth Longfellow, 1807-1882)は、広く国民に敬愛され、知識人に深く崇敬された。その作品は、飛ぶように売れただけでなく、多くのイラストレーションに描かれ、数々の歌曲としてうたわれた。けれども死後、その地位は一気に凋落する。あってはならぬ過去の象徴として、厳しい批判を受けたのである。それは、一時代を画した流行の静かな終焉ではなかった。ロングフェローをアメリカの歴史から追放しようとする、力強い意識的な一斉攻撃を浴びたのである。

### 本研究の目的

そこで本研究では、アメリカにおけるロングフェロー受容の変遷を解明するため、ロングフェローの詩とアメリカの文化との関係を考察する。

その目的は大きく三点に分けられる。まず第一に、ロングフェロー作品の精読を通して、その特徴を明らかにすることである。なぜロングフェローは 19 世紀の読者に愛されたのか。同じロングフェローがなぜ 20 世紀初頭の研究者たちの反感を買ったのか。それらのヒントをテキストのなかに見いだす。第二の目的は、第一の目的から示されたロングフェロー詩

の特徴をふまえ、ロングフェロー詩と、19世紀の様々な文化との間の交流を考察することである。当時のアメリカでは、詩は単なる文学の一形式ではなかった。それは文化の中心にあって、音楽や美術などの周囲の文化と密接に結びついていたのである。そして本研究の第三の目的は、19世紀末から20世紀初頭に起こったロングフェロー排斥の背景を探ることである。上で示した第一の目的と第二の目的から明らかになったロングフェローの作品とその影響を把握したうえで、なぜロングフェローが、かつては彼を愛読した国民によって蔑まれるようになったのかを検討する。

### 本研究の方法

本研究では、ロングフェロー作品の特徴を明らかにするという第一の目的のために、イクスプリカション・ド・テキストを用いる。これは、文章を細かな要素に分解しながら、それらのイメージや音などがどのように機能しているのかを探る技法だ。さらに、イクスプリカションによってテキストの内部を探るだけでなく、同時代の他の作家と横断的に対比させたり、前後の時代の作家と縦断的に対比させたりすることも積極的に行う。

また本研究では、文化への影響を解明するために、当時の大衆文化の背後に隠されている技術や慣習に留意する。たとえば本や雑誌の挿絵は、19世紀初頭までの素朴な板目木版いためや面倒な凹版の銅（鋼）版が、19世紀中期には、精緻な刻印が可能で活字と一緒に版を組むことができる便利な木口木版こぐちをへて、のちには、光化学的に凸版を作りだすことによって彫師を不要にするライン・ブロックや、光化学的に凹版を作りだして濃淡の再現を可能にするグラヴィア版へ移りかわっていた。

さらに本研究では、世紀転換期のロングフェロー批評を分析するに当たって、ふたつの思想を重視する。ひとつは、イギリスの詩人・批評家マシュー・アーノルドが唱えたカルチャーである。これは「この世で考えられ語られてきた最上のもの」をカルチャーとして神聖視する思想だ。もうひとつはアングロサクソン主義である。これは、19世紀後半以降、非アングロサクソンの移民が増えることによって危機を感じた、在来のアングロサクソン系アメリカ人が抱いた自己防衛の思想だ。ロングフェローは、カルチャーを有しない人々や非アングロサクソンの人々にも愛読されていた詩人だった。

### 本研究の構成

本研究ではまず、ロングフェローのテキストから、「村の鍛冶屋」(1839)、「イクセルシオ」

(1841)、『ヒアワサの歌』(1855)、「雪ひら」(執筆 1859)の四作品を取りあげる。

「村の鍛冶屋」を分析するのは、平明な表現で鍛冶屋の日常をうたったこの詩が 19 世紀にはロングフェロー詩のひとつの典型として人気を得ただけでなく、20 世紀には教訓臭たような道徳詩として斥けられるようになったからである。次の「イクセルシオ」も同様だ。それは命をかえりみず理念に燃える若者をうたった詩として、19 世紀には愛唱されていたが、20 世紀になるや、ナンセンスな、あるいは滑稽な物語と考えられるようになっていた。

『ヒアワサの歌』を論じるのは、それがアメリカに過去を提供し、アメリカ人の想像力を掻きたてたものの、のちにはその過去が荒唐無稽の過去とみなされたからだ。他方、小品「雪ひら」を取りあげるのは、その詩法のゆえである。それは、新しい韻律をひそかに使って、読者に詩の魅力を伝える作品になっていた。

本研究では上記の第二の目的のために、音楽への影響例として、19 世紀のファミリー・コーラス・グループ、ハッチンソン・ファミリーを探る。美術との関係として、『エヴァンジェリン』の挿絵の系譜をたどり、加えて、風景画家トーマス・モラーンの、未完におわった版画集の下絵を掘りさげる。文学への影響例として、女性詩人フィービー・ケアリーによるパロディを検討する。そして読書文化との交流として、ロングフェローの作品に描かれた音読や朗読の効用を明らかにする。

さらに本研究では、上記の第三の目的のため、まず世紀転換期のアメリカ文学教育に注目する。イギリス文学教育の一環として成長してきたアメリカ文学教育が、この時期に停滞するからだ。続けて、1897 年竣工のアメリカ議会図書館を考察する。そこには豪華な装飾が施されていたが、ロングフェローをモチーフにした装飾がほとんど見られなかった。また、1900 年に『アメリカ文学史』を著した研究者バレット・ウェンデルを取りあげる。ウェンデルはニュー・イングランドの伝統を信奉し、新しいアメリカ人を軽侮していた。さらに、20 世紀初頭を代表する批評家ヴァン・ワイク・ブルックスを論じる。ブルックスは『アメリカ成人に達す』(1915)によって、ロングフェローに対して致命的な一撃を加えたが、のちには『花開くニュー・イングランド』(1936)によって、詩人の名誉を挽回しようと試みたからである。最後に、哲学者・詩人のジョージ・サンタヤナを分析する。サンタヤナは「お上品な伝統」という造語によって、同時代の批評家たちの攻撃目標を明確にした。

#### 本研究で明らかになったこと

本研究では、以下の三点が明らかになった。まず第一に、ロングフェローは広く人々と関わった詩人になろうと、その詩作に多様な工夫をこらしていたことである。たとえば、

自由や独立、信仰、労働のようなアメリカ人の根底にある特徴をひとりの鍛冶屋に凝縮させた。理念の共和国の市民として、多くのアメリカ人の心根でひそかに燃えている理想的精神を「イクセルシオ」の若者に代弁させた。あるいは、インディアンの歴史をアメリカの過去と連結させることによって、アメリカの過去を神話時代まで延長した。ロングフェローは以上のような工夫によって、読者たちの心をつなぎ合わせていたのである。

第二に明らかになった点は、広く人々をつなごうとしたロングフェローの意図によって、多様な読者が多彩な反応を示したことである。たとえば、ロングフェローの語るアメリカの起源の物語が、風景画家の想像力を刺戟し、アメリカの風景の起源を描かせていた。ロングフェローがうたった、現実を越えようとする情熱が、社会改革運動を推進していた歌手によって、理想主義を説く歌曲になっていた。ロングフェローの唱える気高い精励が、パロディストの諧謔心を刺戟して、現実的な結婚を求める卑俗な精神に改められていた。そして、広く人々と関わろうとしたロングフェローは、コミユナルな読書法である音読や朗読を前提にしていただけでなく、それによって読者たちの一体化を図ろうともしていた。

第三に明らかになったことは、さらに三つの段階に細分することができる。①まず、19世紀アメリカ文学の没個性の象徴という現代的なロングフェロー像は、本研究の第一の目的で示されたロングフェロー詩の特徴や、第二の目的で明らかにされた文化的影響とは、ほとんど無縁のところから生まれた、ということ、すなわち、詩に内在する特徴も、画家や音楽家への感化という影響力も大きな問題にはならなかった。むしろ、ロングフェローの大衆的人気という外的現象が最大の問題だった。②次に、ロングフェロー批評の転回は、新しい文学を創りだそうとしていた、世紀転換期の若い批評家たちによって引きおこされたものではなく、ロングフェローを生んだ伝統に育まれてきた、19世紀末の保守的な紳士階級のなかから起こった、ということである。③したがって、20世紀初頭のブルックスら若い批評家たちの反逆は——ロングフェローを育てた上品なアメリカに対する反逆は——じつは彼らが目の敵かたきにしていた19世紀後半の上品な保守的知識人たちの変質の延長にすぎない、ということ、いいかえれば、1920年代前後の若い批評家たちがもたらした「文化革命」は、新興の民衆が引きおこした、いわば下からの革命であったのではなく、ヘゲモニー内部から発生した、いわば内からの革命であったということである。

本研究で示したように、同時代の文化に広い影響を与え、後世には過去の象徴ともなったロングフェローの作品は、詩であって同時に詩以上のものだった。すなわちそれは、19世紀という時代と表裏一体だった。したがって、ロングフェローの詩のみを歴史から抹消することはできない。ロングフェローを排除せんとすれば、その作品だけでなく、19世紀という時代そのものもアメリカの記憶から閉め出してしまうことになるからである。